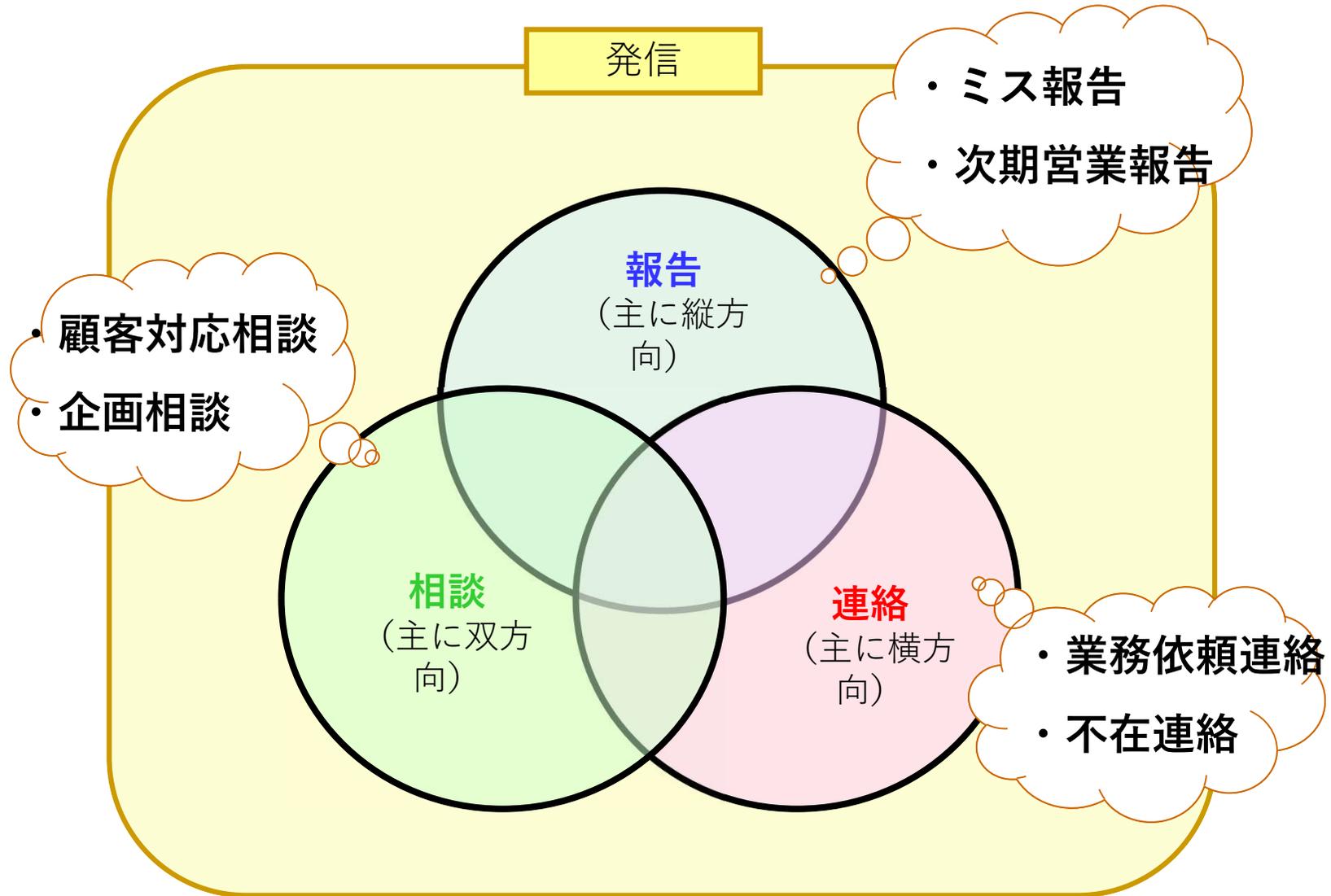
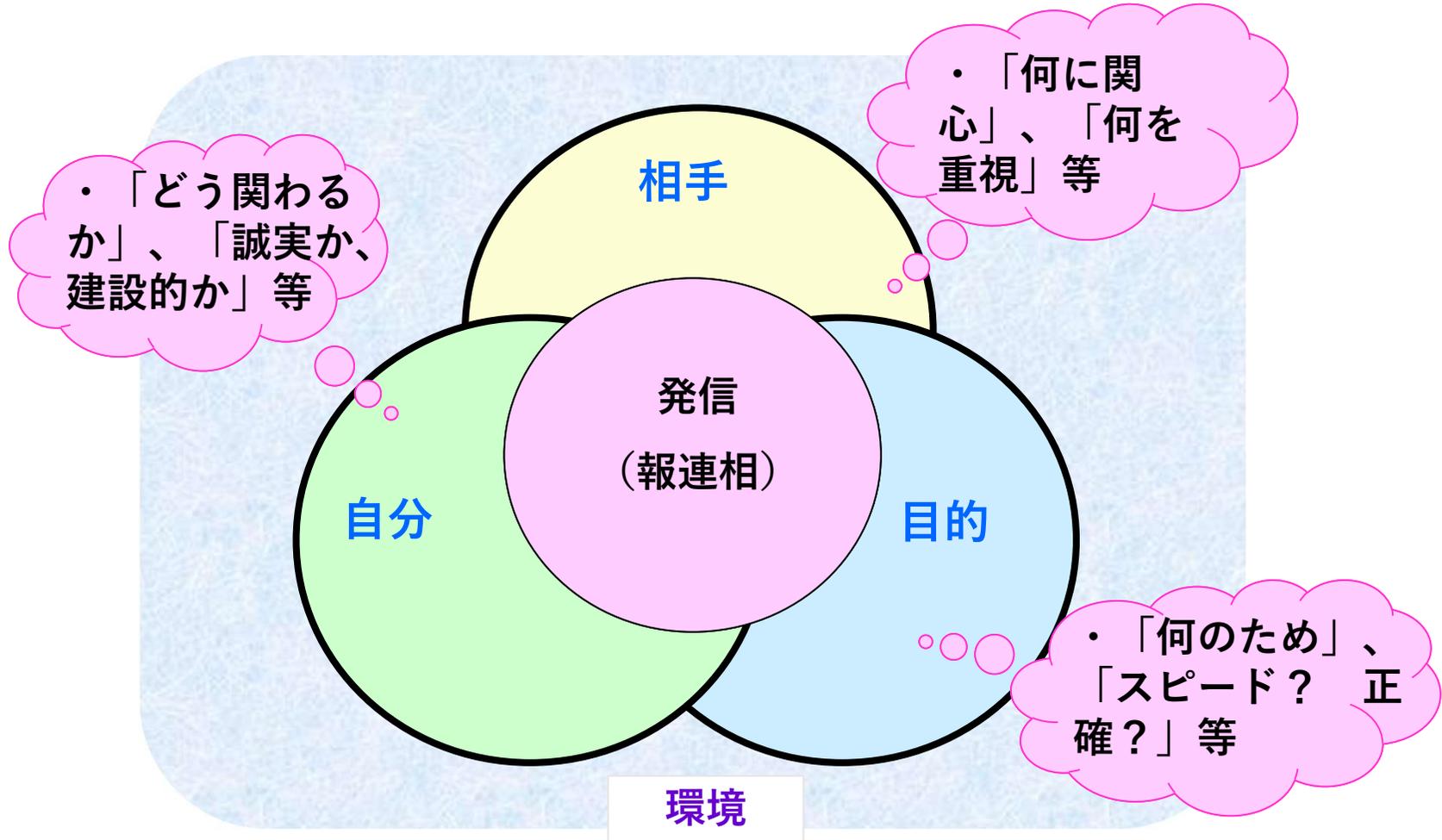


報連相上手になる



報連相上手になる

< 「相手」、「目的」、「自分」 >



報連相上手になる

■あなたのその「報連相」は、3つの視点のそれぞれの深度でしょう。

	目的	相手（他者・環境）	自己
1 度	<p>●表面的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表面的な文字情報、音声情報を認識し、発信する水準（例：3 C = 3 C） 	<p>●対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単なる対応対象として発信する水準。状況によっては「敵」的認識の場合もある 	<p>●こなすマインド（処理的、義務的）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やるべき事」だからやるとの水準 ・必要最底限という気持ちが働くステージ
2 度	<p>●意味的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字・音声情報の意味を理解して発信する水準（例：3 C = Company, Customer、Competitor） 	<p>●協力者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手を自分軸の中での協力者として位置付け、発信する水準 ・不都合な事は伝えない場合もある 	<p>●捲き込むマインド（自主的、権利的）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主的に行動し、積極的だが、ベースは自分軸 ・正直でない場合もある
3 度	<p>●想い（志）的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記に加え、そこに込められた想いや背景も理解して発信する水準（例：3 C = 今、社員が重視すること） 	<p>●仲間・同志</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手との信頼関係に基づき、誠実に発信、対応する水準 ・仲間、同志、協働者との認識 	<p>●互惠（Win-Win）マインド（建設的、大局的）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「我々軸」を持ち、相手と自分の双方、或いは組織にとって何が一番いいかを考え行動する水準

